



師範正
田 染 健 一

師範正
小 野 清 舟

師範正
宮 本 隆 子

成 家
秋 永 春 霞

成 家
下 田 華 恵

成 家
石 橋 芝 水



準3級
佐々木 律 彰

三 段
尾 崎 和 葉

準六段
莊 田 杏 菜

師 範
德 永 紫 陽

師 範
福 田 喜久恵

師 範
亀 井 桂 茜



師範
煤澤美奈



師範
徳永直恵



師範
志岐陽華



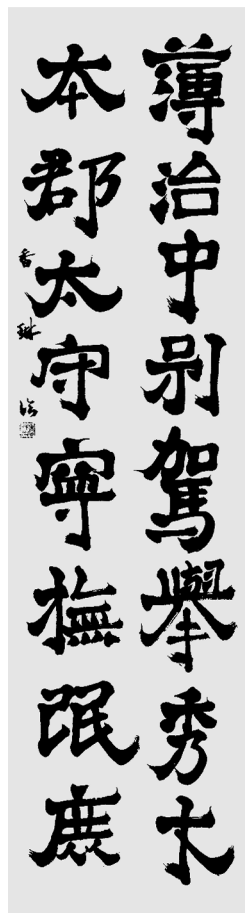
師範正
石田一義



成家
川上和子



成家
江川悦子



準三段
西本香琳



三段
黒土沙織



六段
佐田馨春



準六段
加来千明



五段
牟田悦子



師範
長野芳秀

条幅随意优秀作品 (6月末日締切分)



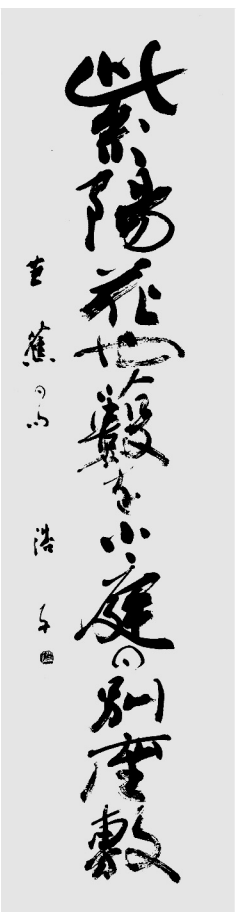
師範
三好香華



師範正
長末華翠



師範正
半田真理



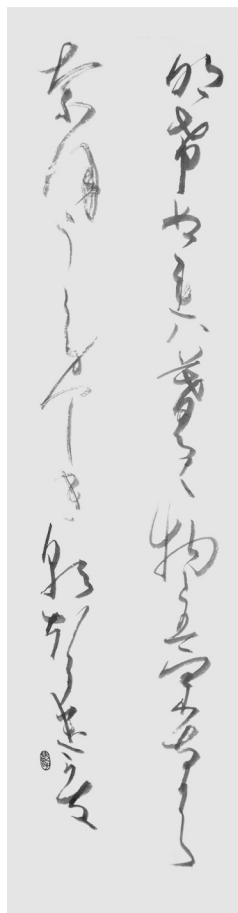
成家
阪井浩子



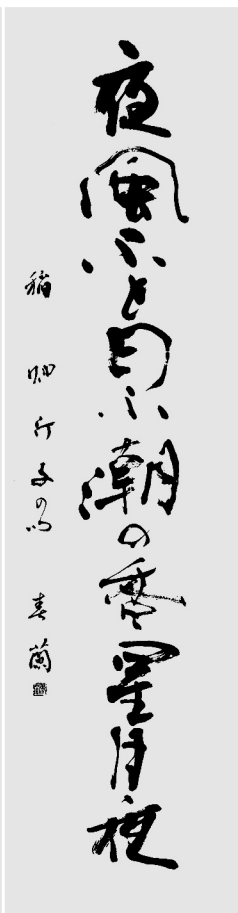
成家
細田青秀



成家
伊良子喜代



準三段
平田由紀子



準四段
中村春蘭



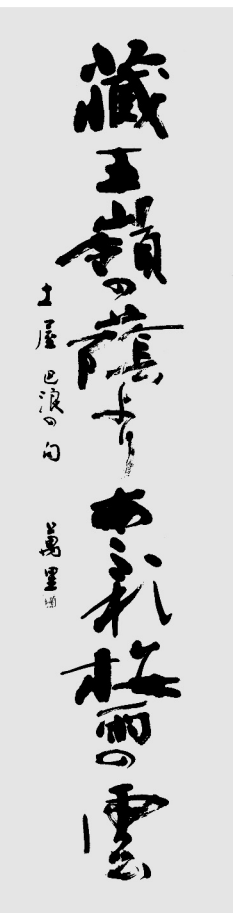
準師範
森小筑



準六段
毛利奈津子



師範
永家友花



師範
大西万里子



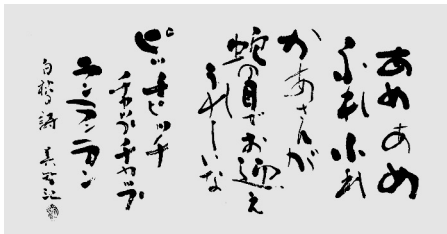
師範 橋 篤子



師範正 石田 千弓



成家 吉田 月華



6級 杉原 美智江



四段 千家 由美



師範 重富 翠柳



小5.2級
境 結愛



小4.三段
古賀 璃音



小3.5級
吉本 芽生



小3.準3級
江川野 敬大



小2.準5級
徳永 亮太



小2.準二段
松井 さら



小1.7級
後藤 早妃



中1.準四段
山田 海斗



中3.特待生
糸園 千紘



中2.準特待生
坂瀬 京野



中2.六段
小野 沙桜



小6.五段
長尾 百花



小6.準初段
萩原 なつみ



小5.二段
佐藤 千夏

半紙規定優秀作品 (6月末日締切分)



六段 久保博恵 準師範 森小筑 準師範 三井千鶴 師範 西阪英子 師範正 上津原踏月 成家 塚峰雪 成家 深町鳳月



二段 小川枝風 準三段 井口美代子 三段 森中螢月 準四段 犬走華光 準五段 有馬清風 五段 内田由美 準六段 入江亜希子



2級 長倉淳子 準1級 吉村妙子 1級 松本幸華 1級 江崎幸枝 準初段 藤井紫苑 初段 松本晴美 準二段 松本陽子



4級 志摩洋子 準3級 眞鍋妙子 3級 上野順子 3級 井上京翠 準2級 松下真子 準2級 金光昭行 2級 濱田菜央

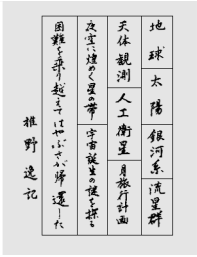
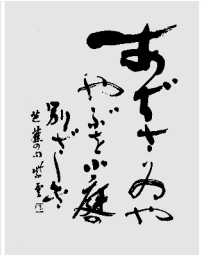
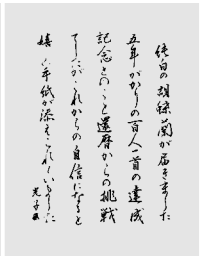
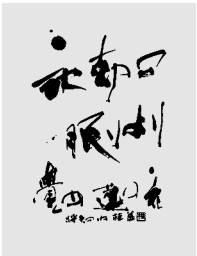
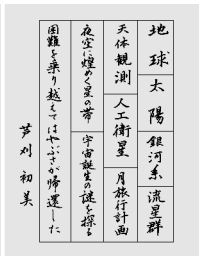
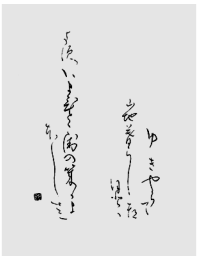
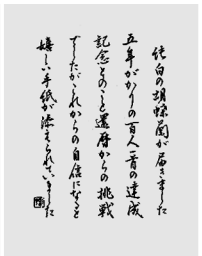
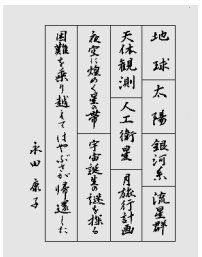
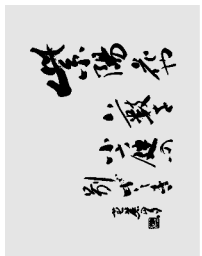
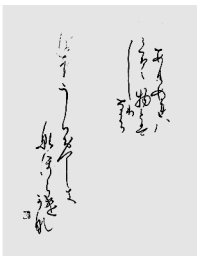
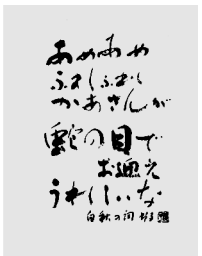
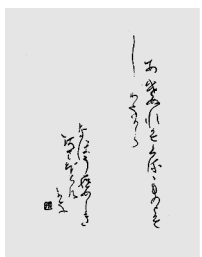
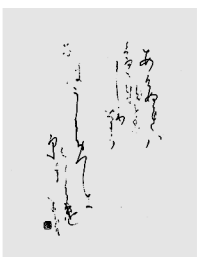
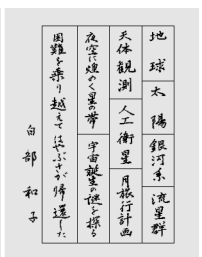
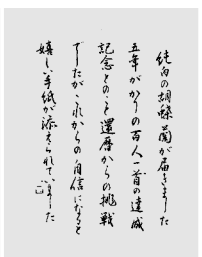
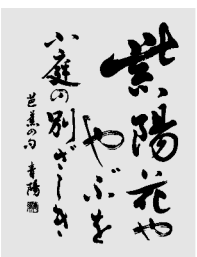


6級 川津麻美 6級 三島久子 準5級 大賀昌子 5級 本村美智子 準4級 山口瑠奈 準4級 定司紀子 4級 福久宏子



8級 佐々木希巳江 8級 藤本菜々 準7級 矢野麻美 準7級 江嶋美樹 7級 黒田典子 7級 宮部綾子 準6級 梶原礼子

半紙随意優秀作品 (6月末日締切分)

						
師範正 野中 静波	師範正 椎野 北斗	師範正 田原 紫雲	師範正 藤 秀月	成 家 秋永 春霞	成 家 川上 和子	成 家 阪井 浩子
						
準師範 溜 鷺 舟	師 範 榎 澤 美 奈	師 範 吉 田 光 子	師 範 亀 井 桂 茜	師 範 副 島 真知子	師 範 番 隆 子	師 範 大 村 皓 月
						
準五段 鶴 田 紅 霞	五 段 小 川 玉 燐	準六段 芦 刈 海 華	準六段 井 上 玲 秀	六 段 諸 山 彩 雲	六 段 樋 田 佳代子	準師範 木場迫 清 扇
						
初 段 久保山奈々子	準二段 飛 高 聖 悟	二 段 四方田 芳 春	準三段 日 高 玉 代	三 段 尾 崎 和 葉	準四段 喜久田 朱 夏	四 段 永 田 月 精
						
準3級 田 中 桂 子	3 級 山 田 保 子	準2級 平 井 翠 峰	2 級 内 田 聡 子	準1級 立 野 香 雲	1 級 吉 田 美 津 子	準初段 内 田 節 子
						
7 級 梶 原 節 子	7 級 横 山 優 子	準6級 白 部 和 子	6 級 古 瀬 香	5 級 森 星 美	準4級 和 田 青 陽	4 級 川 野 藍 秀

半紙随意(臨書)優秀作品 (6月末日締切分)



師範
伊東三陽

師範正
下川沙舟

師範正
宮本隆子

成家
伊良子喜代

成家
下田華恵

成家
白水春鷺

成家
松原華月



準師範
小村佳将

準師範
高田新翠

準師範
青木 緑

師範
岩井紫翠

師範
平田春蓉

師範
矢野涼湖

師範
榎藤陽子



四段
飯村貴雲

準五段
前川恒代

五段
柴田美喬

準六段
加未千明

準六段
関岡多津

六段
樋口祥子

六段
河野陽子



準三段
米谷華蓬

準三段
染矢修蔵

三段
田村美蓮

三段
野崎紫詠

三段
黒土沙織

準四段
別府美恵子

四段
室田るり江



2級
池田信子

準1級
一木信子

1級
田中 葵

1級
安仲洋美

準初段
鹿嶋ひかり

初段
小原美帆

二段
梅田加奈



8級
田原一美

準7級
広瀬理求

6級
蒔田智恵

準4級
淵上優子

4級
内田 優

3級
清村美月

準2級
松崎雅子

半紙優秀作品 (6月末日締切分)



8 級
金森 みゆ

8 級
高島 さ月

準7級
内田 あみ

5 級
穴見 ひな

準8級
東雲りょうたろう

準8級
石橋 はつね

準8級
円田 海翔



準5級
黒木 桃心巴

5 級
中尾 悠里

5 級
境 桜愛

準4級
森川 周

準4級
堀田 美穂

準3級
勝野 敢斗

3 級
野口 ゆい



準8級
増 彩佳

準7級
栗原 果桜

7 級
安部 みりあ

準6級
有田 奈生

準6級
緒方 梨乃

6 級
西古 柊太

準5級
野辺 舞音



4 級
福田 沙羅

準3級
青木 瑠菜

準2級
田中 菜乃

2 級
桐島 愛

1 級
川上 結理奈

準二段
三浦 花音

準四段
室井 さくら



準8級
福盛 彩夏

8 級
長野 つばさ

準7級
宮本 詩

7 級
林田 かなみ

準6級
北島 雅大

6 級
高園 慈仁

準5級
森 海透



準初段
栗田 奏和

初 段
唐澤 佑

二 段
佐藤 千夏

準三段
田中 陽菜

準三段
江田 一心

準三段
山口 茉優

準五段
白倉 美鈴

半紙優秀作品 (6月末日締切分)



準5級 井上歌菜 4級 若松 ゆうな 準2級 野田菜緒 2級 坂本七海 準1級 馬場日向 1級 金澤希彩 1級 黒木心愛



準初段 萩原なつみ 準初段 古賀凌平 初段 安田佳乃 準二段 大石智花 準二段 秋光萌果 準三段 福田知七海 三段 世永誠将



準8級 内田瑛里 7級 福山千晴 準5級 吉岡愛華 準4級 深海莉夏 3級 袈裟丸郁美 2級 長尾大翔 準1級 木實愛海



準二段 上村真世 準四段 原田啓希 四段 久留島日向子 準五段 川野唯華 五段 中根希紗 準六段 重井大空 六段 井上向日葵



準六段 橋井萌絵 準六段 小野そよか 準特待生 森脇愛温 準特待生 板井葵 準特待生 吉富佐知子 特待生 川崎梨紗 特待生 佐田理子



準三段 藤本しほり 準三段 大平ころ 四段 数内春菜 四段 峰彩陽 準五段 野田佑香 五段 海田千夏 五段 池田梓

硬筆優秀作品 (6月末日締切分)

準8級 はるやまゆいみ	準8級 やのみさき	8級 山本美衣奈	8級 田代あきな	準7級 杉山夏蓮	7級 家頭美範	7級 吉田実莉
準8級 正崎ななか	8級 林川めぐみ	8級 梅田ゆな	準6級 末竹海月	6級 矢野杏佳	6級 池田小夏	準4級 道下凜花
5級 堀田美穂	準4級 茂島隆成	準4級 阿南穂花	4級 秦悠貴	準3級 野原まみ	3級 黒木桃心巴	2級 岩尾樹希
準8級 藤原風花	8級 瓜生有梨亜	8級 小野里桜	7級 佐藤小羽瑠	準6級 山口彩花	準6級 大地美有	準5級 田中百々花
準1級 竹井純白	1級 室井さくら	1級 大塚綾美	準初段 池田陽香	初段 遠藤優妃	準二段 清田美羽	準三段 吉賀紀香
準4級 堀川鈴	準4級 吉野亜美	3級 山下夏穂	準2級 笠后瑠	2級 登川千鯉子	2級 進佐都子	準1級 堂森洸

硬筆優秀作品（6月末日締切分）

自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 横尾佳奈	自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 渡部由布実	自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 宮森美海	自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 大久保里奈	自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 永田葉菜	自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 矢野貴士	自分にとって最高のものを 実現するためには、まず 動くそして考えること が大切だということだ。 四年 富永愛
準8級 横尾佳奈	8級 渡部由布実	8級 宮森美海	準6級 大久保里奈	6級 永田葉菜	準5級 矢野貴士	5級 富永愛
円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 平河メグ	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 奥野もえ	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 勝部花奈	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 池畑宝	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 五反咲羽	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 佐藤千夏	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 天野杏
初段 平河メグ	準二段 奥野もえ	二段 勝部花奈	準三段 池畑宝	準三段 五反咲羽	三段 佐藤千夏	準五段 天野杏
円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 山川春菜	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 的場麗太郎	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 向山明里	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 川崎なつめ	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた と曲がって立てられない。 四年 黒木心愛	円柱形だといふことが あるのだから、実験してみよう。 新聞紙をまいて用意するま ずは、広げて立ててみる。くた と曲がって立ててみる。くた	

硬筆優秀作品（6月末日締切分）

少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 田中 妙英	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 渡邊 聖玲	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 中岡 俊介	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 幸丸 結衣	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 古賀 有紗	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 田中 玲緒奈	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 倉重 佳奈
三段 田中 妙英	準四段 渡邊 聖玲	準四段 中岡 俊介	四段 幸丸 結衣	四段 古賀 有紗	準五段 田中 玲緒奈	五段 倉重 佳奈
少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 金松 瑠依	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 林 莉央	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 木村 美友	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 百留 実和	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 吉元 海有	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 松永 明星	少年のころから短歌が好きであつた。善いと思ふ歌に出会ふとそれを学校のノートの終わりのほうに書いておくのである。一首一首の意味を深く考えたわけではない。 向江 千晶
準五級 金松 瑠依	準2級 林 莉央	準初段 木村 美友	準初段 百留 実和	初段 吉元 海有	二段 松永 明星	準三段 向江 千晶
街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 大塚 隆之	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 徳永 直恵	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 岡 由香里	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 田中 麗子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 佐田 尚子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 末森 水苑	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 満江 恵美子
準四段 大塚 隆之	四段 徳永 直恵	準五段 岡 由香里	準六段 田中 麗子	六段 佐田 尚子	準師範 末森 水苑	師範正 満江 恵美子
街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 森坪 梨香	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 長嶺 紘子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 宮秋 冴子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 馬場 紅季	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 成富 幸恵	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 三池 朋子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 長尾 久仁子
準1級 森坪 梨香	1級 長嶺 紘子	準初段 宮秋 冴子	準二段 馬場 紅季	二段 成富 幸恵	準三段 三池 朋子	三段 長尾 久仁子
街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 円岡 蒼峰	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 毛利 奈津子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 和田 さゆり	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 松本 幸子	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 山口 凜華	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 川野 希實	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 中島 理紗子
準5級 円岡 蒼峰	準4級 毛利 奈津子	4級 和田 さゆり	準3級 松本 幸子	3級 山口 凜華	準2級 川野 希實	2級 中島 理紗子
街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 高瀬 真実	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 松永安以	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 安部 彩夏	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 古瀬 香	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 浅原 由美	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 坂田 晴巳	街には人工音があふれてゐる。街頭の大画面が絶えず発する音に店外まで響く音楽携帯電話に入り交する時には私たちの耳が読みとってきた自然の間の調和を大切にしたい。 仲間 志保
準8級 高瀬 真実	8級 松永安以	7級 安部 彩夏	7級 古瀬 香	準6級 浅原 由美	6級 坂田 晴巳	準5級 仲間 志保